

南湖に放流した在来魚(平成 30 年度放流群)の追跡調査

米田一紀・岡本晴夫・根本守仁・大植伸之

1. 目的

琵琶湖南湖の水産資源の再生をめざして、ホンモロコおよびニゴロブナの稚魚(全長 20mm)放流が実施されている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗を追跡調査することで、増殖促進効果を検討している。本項では平成 30 年に下笠地先で放流されたホンモロコ標識魚(585 千尾放流。以下、下笠ホンモロコ)、赤野井沖耕耘区で放流されたホンモロコ標識魚(525 千尾放流。以下、赤野井ホンモロコ)、赤野井地区の水田より赤野井湾に流下させたホンモロコ標識魚(302 千尾放流。以下、赤野井水田ホンモロコ)および赤野井地区の水田より赤野井湾に流下させたニゴロブナ標識魚(485 千尾放流。以下、赤野井水田ニゴロブナ)の追跡調査について報告する。

2. 方法

① 南湖での稚魚分布状況調査: 6/28 から 8/16 までの期間に計 5 回、赤野井湾内の 7 地点においてビームトロール網による採集調査(以下、ビームトロール調査)を行った。また、南湖でのホンモロコの分布を把握するため、6~8 月に南湖に設置されたエリ(東岸側 3 地点、西岸側 1 地点)におけるホンモロコの採捕状況調査(以下、エリ調査)を行った。

② 琵琶湖北湖での標識魚分布調査: 北湖への南湖放流魚の移動状況を明らかにするため、北湖での漁獲魚(刺網、沖曳網)の標識調査を行った。

3. 結果

① ビームトロール調査では、ホンモロコ稚魚は 38 尾採捕され、うち 4 尾が赤野井ホンモロコ、8 尾が赤野井水田ホンモロコであった。フナ稚魚は 50 尾採捕され、うち 32 尾が赤野井水田ニゴロブナであった

エリ調査で得られた稚魚 7,025 尾のうち、下笠ホンモロコは 286 尾、赤野井ホンモロコは 753 尾、赤野井水田ホンモロコは 1,306 尾が採捕された。いずれの群も調査を行った全ての地点で分布が確認されたが、放流地点付近のエリで多く採捕された。また、放流から 10 日間以内の採捕が多かったが、エリ漁が終了した 8 月まで継続的に採捕が見られた。

② 琵琶湖北湖での標識魚分布調査: 秋期(10~11 月)の刺網で漁獲されたホンモロコ当歳魚 1,965 尾を調査したところ、うち 5 尾が下笠ホンモロコ、2 尾が赤野井ホンモロコ、10 尾が赤野井水田ホンモロコであり、いずれの放流群でも秋季の北湖への移動が確認された。

また、冬期(1~2 月)の沖曳網漁獲魚のうちホンモロコ当歳魚 4,785 尾を調査したところ、下笠ホンモロコは 7 尾、赤野井ホンモロコは 30 尾、赤野井水田ホンモロコは 94 尾再捕された。生残率は下笠ホンモロコは 1.5%となり昨年度(4.3%)よりも低下したが、赤野井ホンモロコでは 7.3%となり昨年度(4.3%)よりも上昇した。いずれの放流群も、水田より放流した群と比較すると低い生残率となった(表 1)。ニゴロブナについては、当歳魚 4,560 尾を調査したところ、赤野井水田ニゴロブナは 5 尾が再捕され、北湖への移動が確認された。

表 1 冬期沖曳網によるホンモロコ再捕状況

	放流尾数 (千尾)	補正再捕尾数 (尾)	生残率 (%)
下笠ホンモロコ	585	7	1.5
赤野井ホンモロコ	525	30	7.3
赤野井水田ホンモロコ	302	94	39.9
その他地区水田放流魚	6,208	1,197	24.7